

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【事業年度】	第113期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社 岡本工作機械製作所
【英訳名】	OKAMOTO MACHINE TOOL WORKS,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西本 實男
【本店の所在の場所】	群馬県安中市郷原2-9-3番地
【電話番号】	(027) 385 - 5800
【事務連絡者氏名】	取締役財務部長 高橋 正弥
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目4番地15
【電話番号】	(045) 477 - 5231
【事務連絡者氏名】	取締役財務部長 高橋 正弥
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第109期 平成20年3月	第110期 平成21年3月	第111期 平成22年3月	第112期 平成23年3月	第113期 平成24年3月
売上高(百万円)	36,632	26,592	12,934	18,248	24,151
経常損益(百万円)	4,082	339	2,642	670	271
当期純損益(百万円)	2,567	82	2,709	644	84
包括利益(百万円)	-	-	-	893	39
純資産額(百万円)	13,138	11,652	8,837	7,941	7,901
総資産額(百万円)	38,068	34,092	29,764	28,616	27,927
1株当たり純資産額(円)	294.09	261.15	199.09	178.98	178.10
1株当たり当期純損益(円)	57.45	1.84	60.85	14.52	1.90
潜在株式調整後1株当たり当期純利益(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	34.5	34.2	29.7	27.8	28.3
自己資本利益率(%)	21.22	0.66	26.45	7.68	1.06
株価収益率(倍)	4.06	45.65	2.47	8.75	62.11
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	1,967	232	3,650	686	694
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	1,990	836	630	315	84
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	549	529	1,362	1,304	1,637
現金及び現金同等物の期末残高(百万円)	4,447	4,184	5,878	4,865	2,425
従業員数(人)	1,794	1,677	1,397	1,668	1,799

(注) 1. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

2. 第109期及び第113期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第110期から第112期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第111期より「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を適用しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第109期 平成20年3月	第110期 平成21年3月	第111期 平成22年3月	第112期 平成23年3月	第113期 平成24年3月
売上高(百万円)	29,503	19,920	8,876	10,914	14,400
経常損益(百万円)	2,442	216	2,026	1,425	415
当期純損益(百万円)	1,607	483	2,011	1,245	397
資本金(百万円)	4,880	4,880	4,880	4,880	4,880
発行済株式総数(株)	47,178,956	47,178,956	47,178,956	47,178,956	47,178,956
純資産額(百万円)	12,254	12,293	10,098	8,787	8,374
総資産額(百万円)	32,544	30,355	27,109	24,426	24,176
1株当たり純資産額(円)	274.30	275.50	227.48	198.03	188.77
1株当たり配当額(円)	10.00	5.00	-	-	-
(内1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純損益(円)	35.42	10.83	45.18	28.06	8.97
潜在株式調整後1株当たり当期純利益(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	37.7	40.5	37.2	36.0	34.6
自己資本利益率(%)	13.24	3.94	17.97	13.19	4.64
株価収益率(倍)	6.58	7.76	3.32	4.53	13.15
配当性向(%)	28.2	46.2	-	-	-
従業員数(人)	265	273	281	286	303
(外、平均臨時雇用者数)	(72)	(49)	(23)	(22)	(31)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第109期及び第110期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第111期から第113期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第111期より「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を適用しております。

## 2【沿革】

- 大正15年11月 岡本覚三郎個人経営にて岡本専用工作機械製作所を創業
- 昭和10年6月 株式会社岡本工作機械製作所と組織及び社名変更し、本店を東京市京橋区銀座3丁目4番地におく
- 昭和17年3月 当時主工場であった矢口工場設備の一部移転と新設による横浜工場の操業を開始  
東京本社を横浜市港北区に移転
- 昭和20年9月 本社並びに横浜工場の全域を米軍により接收される  
上記接收に伴い当社株式の市場取引自然停止
- 昭和25年6月 細田機械工業(株)を合併
- 昭和28年3月 平面研削盤の製作を開始
- 昭和32年3月 本社並びに横浜工場の接收全面解除される  
平面研削盤のほか各種工作機械の開発生産体制を整備
- 昭和38年10月 東京証券取引所市場第二部上場
- 昭和47年11月 米国シカゴに販売会社として現地法人 OKAMOTO CORPORATIONを設立(現・連結子会社)
- 昭和48年4月 広島工場の歯車部門を分離独立 岡本歯車(株)を設立
- 昭和48年12月 シンガポールに同国で初めて工作機械を製造する現地法人OKAMOTO(SINGAPORE)PTE,LTD.を設立(現・連結子会社)
- 昭和50年5月 広島工場を分離独立 岡本工機(株)を設立 小型機種 of 製作を分担する
- 昭和50年9月 サービス部門を分離独立 岡本技研サービス(株)を設立
- 昭和56年4月 山陽岡本(株)を設立 広島地区の販売に当る
- 昭和57年4月 群馬県安中市に安中工場完成 稼働開始
- 昭和58年8月 当社の関連会社である岡本技研サービス(株)が商号を技研(株)に変更(現・連結子会社)
- 昭和58年11月 横浜工場を移転閉鎖 神奈川県厚木市に厚木工場開設始動
- 昭和60年6月 新厚木工場完成 稼働開始
- 昭和61年4月 当社の子会社である岡本工機(株)、岡本歯車(株)、山陽岡本(株)の3社が合併し、新たに岡本工機(株)となる  
(現・連結子会社)
- 昭和62年12月 タイに現地法人 OKAMOTO(THAI)CO.,LTD.を設立(現・連結子会社)
- 平成2年4月 安中工場第二期工事完了
- 平成3年7月 (株)ニッショーを買収し子会社とする(現・連結子会社)
- 平成3年9月 米国工作機械メーカーと業務提携
- 平成4年1月 ドイツに現地法人 OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBHを設立(現・連結子会社)
- 平成4年9月 芝山機械(株)を買収し子会社とする
- 平成7年5月 シンガポールに販売・サービスの拠点として、シンガポール支店を開設
- 平成8年10月 芝山機械(株)を合併
- 平成12年3月 本社を神奈川県厚木市(厚木工場)に移転
- 平成14年8月 中国に上海駐在員事務所設立
- 平成15年6月 本店を群馬県安中市(安中工場)に移転
- 平成15年6月 本社を横浜市港北区に移転
- 平成21年10月 シンガポール支店をOKAMOTO(SINGAPORE)PTE,LTDに統合

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社及び関係会社12社（連結子会社7社、非連結子会社4社、関連会社1社）により構成され、主な事業内容と当該事業における位置付けとセグメントとの関連は、次のとおりであります。

なお、以下の区分は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

#### 〔工作機械〕

製造は当社を主として、海外連結子会社のOKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD.、OKAMOTO (THAI) CO., LTD.、国内連結子会社の岡本工機(株) (株)ニッショー、技研(株)の6社が行っております。

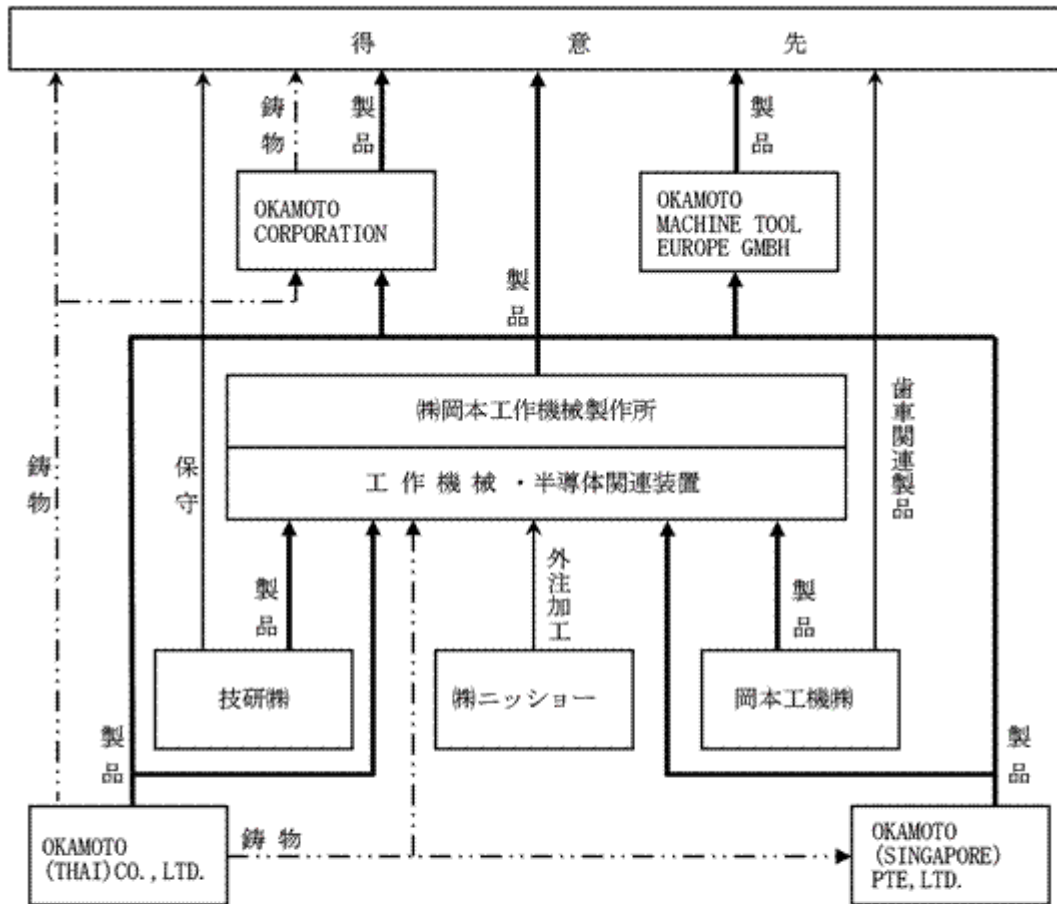
販売は国内では、主として当社及び岡本工機(株)が直接または代理店を通じて行っており、海外では、連結子会社のOKAMOTO CORPORATION、OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH、OKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD.、OKAMOTO (Thai) CO., LTD.の4社が現地及び近接地域に直接または代理店を通じて行っております。

また当社製品の保守業務は、国内においては、技研(株)が行っております。

#### 〔半導体関連装置〕

製造は当社を主として、海外連結子会社のOKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD.、OKAMOTO (THAI) CO., LTD.、国内連結子会社の岡本工機(株)及び協力会社で行っております。販売は国内では、主として当社が直接または代理店を通じて行っております。海外では、連結子会社のOKAMOTO CORPORATION、OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH、OKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD.の3社が現地及び近接地域に直接または代理店を通じて行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



上図の子会社7社は全て連結子会社であります。

その他

- |   |
|---|
| 非連結子会社<br>株式会社グラインデックスコーポレーション<br>株式会社エム・シー・エス<br>OKAMOTO ENGINEERING CO., LTD.<br>岡本工機(常州)有限公司<br>持分法非適用関連会社<br>GREEN EARTH THERMODYNAMICS CO., LTD. |
|---|

## 4【関係会社の状況】

## (1)連結子会社

名称	住所	資本金 又は出資金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容	主要な損益情報 等 (1) 売上高 (2) 経常利益 (3) 当期純利益 (4) 純資産額 (5) 総資産額 (百万円)
OKAMOTO CORPORATION (注) 2, 4	米国イリノ イ州	US\$4,754,500	工作機械及び半 導体関連装置の 輸入・販売	100.0	当社製品の販売 役員兼務 1 名	(1) 2,678 (2) 225 (3) 133 (4) 905 (5) 1,317
OKAMOTO (SINGAPORE) PTE,LTD. (注) 2	シンガポ ール	S\$21,500,000	工作機械及び半 導体関連装置の 製造・販売	100.0	当社製品の製造 ・販売 役員兼務 2 名 資金援助	-
岡本工機(株) (注) 4	広島県福山 市	322百万円	工作機械及び半 導体関連装置の 製造・販売	100.0	当社製品の製造	(1) 3,943 (2) 259 (3) 205 (4) 1,624 (5) 4,088
OKAMOTO (THAI)CO.,LTD. (注) 1, 2, 4	タイ	THB477,000,000	工作機械及び半 導体関連装置の 製造・販売	100.0 (25.4)	当社製品の製造 役員兼務 2 名 資金援助	(1) 5,820 (2) 339 (3) 346 (4) 1,993 (5) 5,781
(株)ニッショー (注) 3	東京都小金 井市	23百万円	工作機械及び半 導体関連装置の ユニット製造	100.0	当社製品のユ ニット製造 役員兼務 2 名 資金援助	-
OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH	ドイツ	EUR511,291	工作機械及び半 導体関連装置の 輸入・販売	100.0	当社製品の販売 役員兼務 2 名 資金援助	-
技研(株)	神奈川県綾 瀬市	18百万円	工作機械の製造 ・修理	100.0	当社製品の製造 ・修理 役員兼務 2 名	-

(注) 1. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 債務超過会社であり、債務超過の額は、平成24年3月末時点で、736百万円となっております。

4. 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

## 5【従業員の状況】

### (1)連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
工作機械	1,671
半導体関連装置	105
全社(共通)	23
合計	1,799

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数であります。  
2. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、当社の管理部門に所属しているものであります。

### (2)提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(百万円)
303 (31)	40.4	15.9	5.0

セグメントの名称	従業員数(人)
工作機械	216 (21)
半導体関連装置	64 (10)
全社(共通)	23 (-)
合計	303 (31)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であります。  
2. 従業員数欄の(外書)は、派遣社員の年間平均雇用人員であります。  
3. 平均年間給与は、基準外賃金、諸手当及び賞与を含んでおります。  
4. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3)労働組合の状況

当社グループのうち、提出会社及びOKAMOTO(SINGAPORE)PTE, LTD. に労働組合があります。

提出会社の労働組合は、岡本工作機械労働組合と称し、J A Mに属し、平成24年3月31日現在における組合員数は264名であります。

OKAMOTO(SINGAPORE)PTE, LTD. の労働組合はMETAL INDUSTRIES WORKERS UNIONと称し、平成24年3月31日現在における組合員数は118名であります。

いずれも会社と組合との関係は円満に推移しており、懸案事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響や欧州の債務危機に加え円高やタイ国における洪水災害などの影響を受けたものの、徐々に経済への影響は緩和され、企業の生産活動も正常に向かい始めるなど、総じて緩やかな回復基調となりました。

海外におきましては、アジアを中心とした新興国の経済成長にささえられ、概ね堅調に推移いたしました。しかしながら、中国経済には金融引き締め政策や輸出の不振から減速傾向がみられ、米国は雇用情勢の改善が鈍化し、欧州では債務危機は小康状態にあります。経済は低迷するなど、世界経済の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、様々な顧客ニーズに対応した製品の開発、海外市場に対する販売強化、変動費の圧縮に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は前連結会計年度比32.3%増の24,151百万円になり、経常利益は271百万円（前連結会計年度は経常損失670百万円）、当期純利益は84百万円（前連結会計年度は当期純損失644百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

#### ア．工作機械事業

国内市場におきましては、東日本大震災後の生産活動の正常化に伴い、企業収益や設備投資が持ち直し、売上・受注状況は全般的に堅調に推移いたしました。

製品別では、高い精度が必要とされる直動ガイドメーカー等の軸受加工用に大型・中型平面研削盤の売上が上向き、加工条件自動設定に代表される操作性の良さと高能率に対応した内面研削盤の新シリーズの売上が工作機械部品、建設機械、自動車等の幅広い業種向けに拡大いたしました。

また、自動車等量産ライン向けの専用研削盤を複数ライン受注するなど積極的な市場開拓が実を結んでいます。

海外市場におきましては、タイ国の洪水被害に直面しましたが、被災したユーザーを巡回し状況把握するとともにサービス・オーバーホールや復旧需要向け製品を生産するなど迅速な対応を行ってまいりました。この他、アジア市場の需要は全般的に安定しており、中国におきましても懸念された金融引き締め政策による大きな落ち込みもなく推移いたしました。

このような結果、売上高は前連結会計年度比36.8%増の19,128百万円、営業利益は同213.0%増の1,476百万円となりました。

#### イ．半導体関連装置事業

半導体市場は低調に推移いたしました。スマートフォン（多機能携帯電話）・タブレット型PC（多機能携帯端末）を中心とする各種携帯電子機器用半導体メモリーや液晶パネルの需要にささえられ、ウェーハバックグラインダーをアジア市場に納入いたしました。また、大口の液晶用ガラス基板研磨装置の受注が売上に貢献いたしました。

一方、活発な投資が見込まれる環境・エネルギー分野におきましては、新規開発の太陽光発電用インゴット加工装置をアジアおよび欧米市場の太陽電池メーカーに納入いたしました。期の後半から欧州の債務危機、中国の金融引き締め政策などにより需要は減速いたしました。

LED用サファイアインゴット研削盤につきましては、韓国の材料メーカーから受注を獲得するとともに、中国においても大口の引合いが増加しております。

このような結果、売上高は前連結会計年度比17.7%増の5,023百万円、営業利益は72百万円（前連結会計年度は営業損失224百万円）となりました。



(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度末と比較して2,439百万円（50.1%）減少し、2,425百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、694百万円（前年同期は686百万円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益334百万円、減価償却費1,162百万円及び仕入債務の増加883百万円により資金が増加した一方で、売上債権の増加2,540百万円、たな卸資産の増加263百万円及び法人税等の支払267百万円により資金減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、84百万円（前年同期比73.3%減）となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入1,052百万円及び投資有価証券の売却による収入131百万円により資金が増加した一方で、定期預金の預入による支出766百万円及び有形固定資産の取得による支出480百万円により資金が減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,637百万円（前年同期比25.5%増）となりました。これは主に、短期借入金の増加（純額）1,170百万円及び長期借入れによる収入1,108百万円により資金が増加した一方で、長期借入金の返済による支出3,599百万円により資金が減少したことによるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
工作機械	18,373	124.9
半導体関連装置	5,073	117.8
合計	23,447	123.3

(注) 1. 金額は販売価格によっております。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	商品仕入高(百万円)	前年同期比(%)
工作機械	-	-
半導体関連装置	100	189.9
合計	100	189.9

(注) 1. 金額は仕入価格によっております。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
工作機械	18,859	118.0	4,602	94.5
半導体関連装置	4,291	110.1	617	45.8
合計	23,150	116.4	5,220	83.9

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
工作機械	19,128	136.8
半導体関連装置	5,023	117.7
合計	24,151	132.3

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

#### (1) 対処すべき課題の内容等

当社グループの経営をとりまく今後の環境については、欧州債務問題・長期化する円高・新興国における経済成長の減速などの懸念要素は払拭されておらず、不透明な市場環境が続くものと予想されます。

このような中、当社グループでは、中長期的な戦略として下記の諸施策を掲げ『景気に左右されることなく利益を上げ得る強固な経営体質』の確立・定着を図るべく、全社を挙げて取り組んでおります。

#### 売上の安定化と利益重視の施策

- i . 安定的な売上と粗利の確保
  - ・ 超高精度研削盤：販売事例の世界展開
  - ・ 汎用研削盤：業種、機種、地区別販売戦略の展開
  - ・ 半導体関連装置：成長市場に向けた新製品の開発
  - ・ 液晶用ガラス基板研磨装置：次世代要求への対応
  - ・ 既存機種の後継機・新機種の開発
- . コスト削減策
  - ・ 外部支出費の削減
  - ・ 新製品、大型特殊仕様機種のコスト管理強化
  - ・ 全社的な品質管理システムの確立
  - ・ 海外生産拠点への生産シフトの継続、徹底
- . 社内環境整備
  - ・ 超高精度研削盤の製造・開発に見合った環境整備
  - ・ 内製化、増産要求に応えるための生産拠点の充実
- . 各子会社の収益向上と体質強化

#### 資金効率の改善及び有利子負債の削減

- . 棚卸資産の削減
- . 売上債権の回収促進
- . 機動的な資金調達

#### (2) 株式会社の支配に関する基本方針について

##### 基本方針の内容

当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではなく、最終的には株式の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の決定に委ねられるべきだと考えております。

ただし、株式の大規模買付提案の中には、たとえばステークホルダーとの良好な関係を保ち続けることができない可能性があるなど、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのあるものや、当社グループの価値を十分に反映しているとは言えないもの、あるいは株主が最終的な決定をされるために必要な情報が十分に提供されないものもありえます。

そのような提案に対して、当社取締役会は、株主の皆様から負託された者の責務として、株主のために、必要な時間や情報の確保、株式の大規模買付提案者との交渉などを行なう必要があると考えております。

##### 取組みの具体的な内容

#### ( i ) 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は、大正15年の創業以来、研削盤を中心とした工作機械分野と半導体関連装置分野において、高性能の製品を生産し顧客のニーズに応じていくことによって高い評価を受けてきました。今後も長期にわたる顧客・取引先との信頼関係やブランド力に基づき、さらに安定した経営基盤を確立し、社会に大きく貢献していけるような企業への飛躍を目指しています。当社グループでは、中長期的な戦略として「景気に左右されることなく利益を上げ得る強固な経営体質」の確立・定着を図るべく、全社を挙げて取り組んでおり、また一方で、内部管理体制の強化やコンプライアンスの遵守など、経営の改善にも取り組んでまいります。さらに、近年、社会的な重要問題となっている、地球環境への配慮に努め、環境に調和する技術の開発や事業活動を心がけていくこととしています。これらひとつひとつの取組みが、当社および当社グループの企業価値の向上、ひいては株主共同利益の極大化に繋がっていくものと考えております。

( ) 不適切な者によって支配されることを防止するための取組み

当社は、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（会社法施行規則第118条第3号ロ）の一つとして、平成23年5月13日開催の取締役会及び平成23年6月29日開催の第112期定時株主総会の各決議に基づき、平成20年6月27日に導入した「当社株券等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」の内容を一部修正のうえ、継続しております（以下、継続後の対応策を「本プラン」という。）。

本プランは、当社株式等の大規模買付行為を行なおうとする者が遵守すべきルールを策定するとともに、一定の場合に当社が対抗措置をとることによって大規模買付行為を行なおうとする者に損害が発生する可能性があることをあらかじめ明らかにし、これらを適切に開示することにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さない当社株式等の大規模買付行為を行なおうとする者に対して、警告を行なうものです。

不適切な者による支配を防止するための取組みについての取締役会の判断及びその理由

上記 の取組みは、企業価値・株主共同の利益を確保・向上させるための具体的施策として策定されたものであり、上記 の基本方針に沿うものであります。特に、本プランは、株主総会で承認を得て導入されたものであること、その内容として合理的な客観的要件が設定されていること、独立性の高い社外取締役、社外監査役又は社外の有識者から選任される独立委員会が設置され、本プランの発動に際しては必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で第三者専門家を利用することができることとされていること、有効期間が最長約3年と定められた上、取締役会によりいつでも廃止できるとされていることなどにより、その公正性・客観性が担保されております。

したがって、当社取締役会は、上記 の取組みについて、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 市況変動について

当社グループが販売する工作機械、半導体関連装置業界は、景気変動の影響を受け易い特徴があり、設備投資や個人消費の動向が企業業績に与える影響は小さくありません。特に、景気の停滞期には、設備投資や個人消費の低迷による需要の冷え込みから業界全体の受注総額が縮小し、当社グループの業績を悪化させる可能性があります。

##### (2) 有利子負債への依存について

当社グループの直近3期の連結会計年度末有利子負債残高及び総資産に占める割合は下記のとおりであります。当社は、借入金比率の削減による財務体質の強化に努めておりますが、今後の経済情勢等により、市場金利が変動した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期
有利子負債残高(百万円)	16,714	15,377	13,929
総資産(百万円)	29,764	28,616	27,927
総資産に占める割合(%)	56.2	53.7	49.9

##### (3) 資金調達について

当社グループは、銀行からの借入金による資金調達を中心に、シンジケートローン等の方法により調達方法の多様化を図っておりますが、契約内容に一定の条項が付されている場合があり、当該事由に抵触した場合には当社グループの資金繰りに影響を与える可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループは、総合砥粒加工機メーカーとして顧客の高精度要求に対応していくため、「究極の平面創成」をスローガンに、平面加工（研削・研磨）の分野において世界で最高峰の技術を目指すことを主要な開発テーマとしております。

当連結会計年度における研究開発費の総額は127百万円であります。

また、当社グループの研究・開発・技術スタッフは89名で、全従業員の4.9%に当たります。

なお、セグメント別の状況は次のとおりであります。

### (1) 工作機械

これまで中大物部品加工用として市場投入してきた、コラム形平面研削盤（前後幅800mm）シリーズにつきまして、更なる市場からの製品加工の高精度化・高効率化及び操作性向上の要求に応えるため、門形構造にモデルチェンジするとともに、熟練加工技術を必要としないiQ制御装置を採用したCH-iQシリーズを開発し、市場に提供いたしました。微細金型や精密金型業界に投入した超精密マイクロプロファイル研削盤につきましては、一層の高精度化・高効率化及び操作性向上要求に対応するため開発を行った、粗加工から仕上げ加工まで対応可能な2スピンドルモデル機の市場への提供を開始いたしました。また、加工ワークの自動交換装置とともに、加工ワーク交換時の位置誤差をキャンセルするCCDカメラによる画像処理システム及び周辺装置の開発を行うなどの改良・改善を進めております。

この他、高精度成形研削盤につきましては、更なる高精度化及び高効率化の市場要求に応えるため、構造面では熱変位を抑制する案内面構造及び熱管理機構、並びにテーブルのリニアモータ駆動構造を、周辺装置面では加工部品の自動測定装置及び測定結果による自動補正研削システム、並びに高精度・高能率砥石成形装置を搭載した成形研削盤を開発し、市場に提供いたしました。

### (2) 半導体関連装置

半導体デバイスウェーハ関連では、TSVデバイスはいよいよ製品化を間近に控えております。弊社のTSV装置で、さらに信頼性の高い製品加工が可能な改良とともに、プロセス技術の研究にも注力しております。

LED・パワーデバイス関連では、サファイヤブロックの円筒と基準平面を自動研削するシステムを開発し製品加工に採用されましたが、更なる高精度な要求にも対応してまいります。

LED用ウェーハやパワーデバイス用ウェーハの加工では、より高能率な薄化と複数工程の自動化を進めております。

太陽光発電関連では、インゴット加工機が単結晶シリコン素材の四面切断工程から研削工程までのシリーズ化が完了し、市場からの高生産性、自動化要求に対応いたしました。また、より一層の能率化と省資源化に取り組んでおります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。連結財務諸表の作成に当たりましては、当連結会計年度末日における資産・負債並びに当連結会計年度における収益・費用の金額に影響を与える見積りを必要とします。これらの見積りについては、過去の実績等を勘案し合理的に、継続して評価しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、見積りと異なる可能性があります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループは、様々な顧客ニーズに対応した製品の開発、海外市場に対する販売強化に取り組んでまいりました結果、当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度比32.3%増の24,151百万円となりました。なお、セグメント別の業績の詳細につきましては、「1.業績等の概要」に記載しております。

#### セグメント別の売上高の推移

	工作機械事業（百万円）	半導体関連装置事業 （百万円）	合計（百万円）
平成24年3月期	19,128	5,023	24,151
平成23年3月期	13,981	4,266	18,248
平成22年3月期	7,959	4,975	12,934
平成21年3月期	17,473	9,118	26,592
平成20年3月期	23,073	13,558	36,632

利益面では、グループ全体で内製化や仕入価格の見直しなど変動費の低減に取り組んでまいりましたが、円高や一部の原材料価格上昇の影響を受け、売上総利益率は前連結会計年度に比べ1.0ポイント悪化の23.7%、売上総利益は5,729百万円となりました。営業利益は、輸送費用の見直しや開発案件の絞り込みなど販売管理費の削減に努めた結果、774百万円（前連結会計年度は営業損失467百万円）となりました。

営業外損益は、主に、為替差損が28百万円増加、受取配当金が203百万円減少するなど、前連結会計年度と比較して300百万円費用（純額）が増加いたしました。以上の結果、経常利益は271百万円（前連結会計年度は経常損失670百万円）となりました。

特別損益では、投資有価証券売却益57百万円を特別利益に計上いたしました。これらの結果、税金等調整前当期純利益は334百万円となり、当期純利益は84百万円（前連結会計年度は当期純損失644百万円）となりました。

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「4.事業等のリスク」に記載しております。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

財政状態の状況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比較して689百万円減少し27,927百万円となりました。内訳については、流動資産は前連結会計年度末比53百万円増加の17,864百万円、固定資産は同742百万円減少の10,062百万円であります。流動資産増加の主な要因は、現金及び預金が2,683百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が2,486百万円、たな卸資産が184百万円、繰延税金資産が43百万円増加したことによるものであり、固定資産減少の主な要因は、有形固定資産が623百万円減少したことによるものであります。

当連結会計年度末の負債の合計は、前連結会計年度末と比較して648百万円減少し20,026百万円となりました。この減少の主な要因は、支払手形及び買掛金が873百万円増加した一方で、有利子負債（借入金、リース債務）が1,447百万円減少したことによるものであります。

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末と比較して40百万円減少し7,901百万円となりました。この減少の主な要因は、円高に伴い為替換算調整勘定が82百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の27.8%から28.3%となりました。

キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの状況の分析につきましては、「1. 事業等の概要(2) キャッシュ・フロー」に記載しております。

(5) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を策定すべく努めておりますが、当社グループが販売する製品は設備機械であることから、「4 事業等のリスク」に記載のとおり、業績は景気変動の影響を受けやすい傾向があります。このため、当社グループは「3 対処すべき課題(1) 対処すべき課題の内容等」に記載のとおり、『景気に左右されることなく利益を上げ得る強固な経営体質』の確立・定着を目指し、全社をあげて諸施策に取り組んでおります。

また、当社グループの経営陣は、新製品の開発を始めとして市場のニーズに即した製品開発及び生産拠点の決定等、安定した利益を確保し、社会に還元できるよう、常に適切な選択、判断を行ってまいります。



### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループは、生産効率と品質の向上に重点をおき、602百万円の設備投資を実施いたしました。主なものは、当社安中工場及び岡本工機㈱での生産設備の更新であります。セグメント別の内訳は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

当連結会計年度

工作機械	527百万円
半導体関連装置	74百万円
全社	0百万円
合計	602百万円

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1)提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数(人)	
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地(面積㎡)	リース資産	その他		合計
本社 (横浜市港北区)(注)2	全社(共通)	管理施設	3	-	- (-)	-	11	15	25
安中工場 (群馬県安中市)	工作機械 半導体関連装置	生産設備	1,740	1,097	952 (68,219)	57	58	3,905	219
大阪営業所他10営業所	工作機械 半導体関連装置	販売施設	6	0	- (-)	-	0	7	59
寮・その他	全社(共通)		143	0	57 (4,300)	-	0	201	-

##### (2)国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数(人)	
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地(面積㎡)	リース資産	その他		合計
岡本工機㈱ (広島県福山市)	工作機械 半導体関連装置	生産設備 販売施設	181	588	157 (22,066)	52	14	994	209
㈱ニッショー (東京都小金井市)	工作機械 半導体関連装置	生産設備	20	0	53 (3,150)	-	0	74	10
技研㈱ (神奈川県綾瀬市)(注)3	工作機械	生産設備	9	30	- (-)	-	6	45	68

## (3)在外子会社

平成24年3月31日現在

会社名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数(人)	
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地(面積㎡)	リース資産	その他		合計
OKAMOTO CORPORATION (米国)	工作機械 半導体関連装置	販売施設	148	4	41 (4,816)	-	0	195	21
OKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD. (シンガポール)(注)4	工作機械 半導体関連装置	生産設備 販売施設	780	491	- (-)	50	15	1,337	259
OKAMOTO (THAI)CO.,LTD. (タイ)	工作機械 半導体関連装置	生産設備 販売施設	1,019	679	225 (69,324)	138	128	2,192	918
OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH (ドイツ)	工作機械 半導体関連装置	販売施設	0	1	- (-)	-	1	3	11

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含まれておりません。
2. 提出会社の本社は、建物を賃借しており年間の賃借料は18百万円であります。
3. 国内連結子会社の技研㈱は、建物を賃借しており年間の賃借料は33百万円であります。
4. 在外連結子会社のOKAMOTO(SINGAPORE)PTE,LTD.の土地は、シンガポール政府より賃借しております。

## 3【設備の新設、除却等の計画】

## (1)重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

## (2)重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	47,178,956	47,178,956	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	47,178,956	47,178,956	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成16年6月29日	-	47,178,956	-	4,880	1,535	-

(注) 資本準備金の減少は欠損填補によるものであります。

#### (6)【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	8	36	53	33	1	6,292	6,423	-
所有株式数(単元)	-	3,952	1,578	3,328	659	1	36,763	46,281	897,956
所有株式数の割合 (%)	-	8.54	3.41	7.19	1.42	0.00	79.44	100.00	-

(注) 自己株式2,815,181株は「個人その他」に2,815単元及び「単元未満株式の状況」に181株含めて記載してあります。

## (7)【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)岡本工作機械製作所	群馬県安中市郷原2993番地	2,815	5.97
細田 泰造	横浜市鶴見区	2,007	4.25
あいおいニッセイ同和損害保 険(株)(常任代理人 日本マス タートラスト信託銀行(株))	東京都渋谷区恵比寿1丁目28-1 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	1,194	2.53
三菱UFJ信託銀行(株)(常任 代理人 日本マスタートラスト 信託銀行(株))	東京都千代田区丸の内1丁目4-5 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	1,163	2.46
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	1,074	2.28
オーエスジー(株)	愛知県豊川市本野ヶ原3丁目22	975	2.07
岡本 勇	横浜市港北区	754	1.60
旭ダイヤモンド工業(株)	東京都千代田区紀尾井町4番1	565	1.20
ユニー(株)	愛知県稲沢市天池五反田町1番地	536	1.14
日本証券金融(株)	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	354	0.75
合計		11,439	24.25

(注) 三菱UFJ信託銀行(株)の所有株式数の内、信託業務に係る株式数はありません。

## ( 8 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,815,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 43,466,000	43,466	-
単元未満株式	普通株式 897,956	-	-
発行済株式総数	47,178,956	-	-
総株主の議決権	-	43,466	-

## 【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)岡本工作機械製作所	群馬県安中市郷原 2 9 9 3 番地	2,815,000	-	2,815,000	5.97
計	-	2,815,000	-	2,815,000	5.97

## ( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	8,045	1,029,466
当期間における取得自己株式	1,307	135,264

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	2,815,181	-	2,816,488	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、内部留保とのバランスを考慮しつつ、安定的な配当を継続して行うことを基本方針としております。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、今後の見通し等、諸般の状況を考慮し、誠に遺憾ではありますが、無配とさせていただきます。

また、内部留保資金につきましては、新製品の開発や企業体質の一層の強化に有効に投資していく所存であります。

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第109期 平成20年3月	第110期 平成21年3月	第111期 平成22年3月	第112期 平成23年3月	第113期 平成24年3月
最高(円)	589	292	163	179	165
最低(円)	205	72	73	82	80

(注) 株価は東京証券取引所(市場第二部)の市場相場におけるものです。

#### (2)【最近6ヶ月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	平成23年11月	平成23年12月	平成24年1月	平成24年2月	平成24年3月
最高(円)	109	102	120	117	127	123
最低(円)	100	80	92	94	105	111

(注) 株価は東京証券取引所(市場第二部)の市場相場におけるものです。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長		佐々木 栄治	昭和24年1月6日生	昭和46年4月 当社入社 平成12年10月 当社経営管理部総合企画担当部長 平成13年6月 当社取締役経営管理部長兼子会社関係管掌 平成15年6月 当社常務取締役経営管理管掌兼子会社関係管掌 平成17年6月 当社専務取締役経営管理管掌兼子会社関係管掌 平成19年6月 技研株式会社代表取締役会長(現) 平成19年6月 株式会社ニッショー代表取締役社長 平成21年6月 当社専務取締役 平成22年6月 当社代表取締役会長(現)	(注)2	48
代表取締役社長		西本 實男	昭和22年1月2日生	昭和46年4月 当社入社 平成5年6月 OKAMOTO(THAI)CO.,LTD.常務取締役工場長 平成12年4月 当社安中工場長 平成13年6月 当社取締役安中工場長 平成15年6月 当社取締役副社長兼安中工場長 平成15年7月 当社取締役副社長兼営業・技術開発・生産部門管掌兼安中工場長 平成16年6月 当社代表取締役社長(現)	(注)2	75
取締役副社長		小林 一雄	昭和20年4月8日生	昭和54年2月 芝山機械(株)入社 昭和58年10月 同社取締役技術部長 平成元年11月 同社常務取締役 平成8年6月 当社常務取締役 平成8年10月 当社常務取締役半導体事業本部長 平成12年4月 当社常務取締役技術開発部担当 平成13年6月 当社専務取締役技術開発管掌 平成15年7月 当社専務取締役新規技術開発管掌 平成16年6月 当社取締役副社長兼新規技術開発管掌 平成19年7月 当社取締役副社長技術開発管掌 平成20年6月 当社代表取締役副社長技術開発管掌 平成21年6月 当社代表取締役副社長 平成22年6月 当社取締役副社長(現)	(注)2	40
常務取締役	製造部長	石井 常路	昭和31年11月26日生	昭和54年4月 当社入社 昭和62年12月 OKAMOTO(THAI)CO.,LTD.取締役 平成15年7月 OKAMOTO(THAI)CO.,LTD.取締役社長 平成17年6月 当社取締役兼OKAMOTO(THAI)CO.,LTD.取締役社長兼OKAMOTO(SINGAPORE)PTE,LTD.取締役社長 平成19年7月 当社取締役兼OKAMOTO(THAI)CO.,LTD.取締役社長 平成24年6月 当社常務取締役製造部長(現)	(注)2	-



役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	技術開発部長	伊藤 暁	昭和33年2月10日生	昭和56年4月 当社入社 平成7年4月 当社シンガポール支店長 平成15年7月 当社海外営業部長 平成17年6月 当社取締役営業統括部長 平成21年6月 当社取締役技術開発部長(現)	(注)2	25
取締役	財務部長	高橋 正弥	昭和34年3月2日生	昭和57年4月 当社入社 平成15年7月 当社経営管理部長 平成19年6月 技研株式会社代表取締役社長 平成20年3月 当社企業システム開発部長兼技研株式会社代表取締役社長 平成20年7月 当社管理部長兼財務部長 平成20年10月 当社管理部長兼財務部長兼グループ事業管理室長 平成21年6月 当社取締役管理部長 平成23年7月 当社取締役財務部長(現)	(注)2	31
取締役	営業部長	渡邊 哲行	昭和38年3月21日生	昭和60年4月 当社入社 平成15年7月 当社国内営業部長 平成19年4月 OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH取締役社長 平成21年6月 当社取締役営業部長(現)	(注)2	13
常勤監査役		中根 正和	昭和24年8月24日生	昭和47年4月 当社入社 平成9年6月 当社安中工場次長 平成12年3月 当社経営管理部次長 平成15年6月 技研株式会社代表取締役社長 平成18年12月 当社企業システム開発部長兼技研株式会社代表取締役社長 平成19年6月 当社企業システム開発部長兼技研株式会社取締役 平成20年3月 当社内部監査室長兼技研株式会社取締役 平成20年6月 当社監査役(現)	(注)3	22
常勤監査役		村中 淳男	昭和32年5月21日生	昭和55年4月 三菱信託銀行株式会社入社 平成元年10月 同社人事部企画グループ調査役 平成8年8月 同社仙台支店法人営業第1課課長 平成11年7月 同社審査第1部審査グループグループマネージャー 平成14年2月 同社静岡支店次長 平成17年10月 三菱UFJ信託銀行株式会社静岡支店次長 平成18年12月 同社監査部業務監査室主任調査役 平成20年10月 同社監査部業務監査室統括マネージャー 平成22年6月 当社監査役(現)	(注)3	4

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役		山岡 通浩	昭和41年9月12日生	平成3年10月 司法試験合格 平成4年4月 司法研修所入所 平成6年4月 弁護士登録大西昭一郎法律事務所入所 平成10年4月 山岡法律事務所(現山岡総合法律事務所)入所(現) 平成12年4月 最高裁判所司法研修所刑事弁護所付 平成19年4月 慶應義塾大学大学院法務研究科准教授(非常勤) 平成20年6月 当社監査役(現) 平成23年4月 最高裁判所司法研修所刑事弁護教官(現)	(注)3	11
監査役		宇根 篤暢	昭和21年7月14日生	昭和46年4月 日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所入所 昭和60年3月 工学博士(大阪大学) 平成8年7月 NTTシステムエレクトロニクス研究所主幹研究員 平成8年10月 防衛大学校機械工学教室機械工学科教授 平成12年4月 同システム工学群機械工学科教授 平成15年4月 同システム工学群機械工学科長 平成17年4月 同学術情報センターマルチメディア部門長 平成20年4月 同総合教育学群総合教養教育室長 平成24年3月 定年退官 平成24年6月 当社監査役(現)	(注)3	-
計						269

- (注) 1. 監査役村中淳男、山岡通浩、宇根篤暢は、会社法第2条第16号に定める「社外監査役」であります。  
2. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年であります。  
3. 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年であります。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、コーポレート・ガバナンスが有効に機能することが求められている中、株主に対して一層の経営の透明性を高めるため、公正な経営を実現することを最優先にしております。経営内容の公平性と透明性を高めるため、内部統制システムの整備に取り組むとともに、積極的かつ迅速な情報開示に努め、インターネットを通じての財政情報の提供を行うなど幅広い情報開示に努めております。

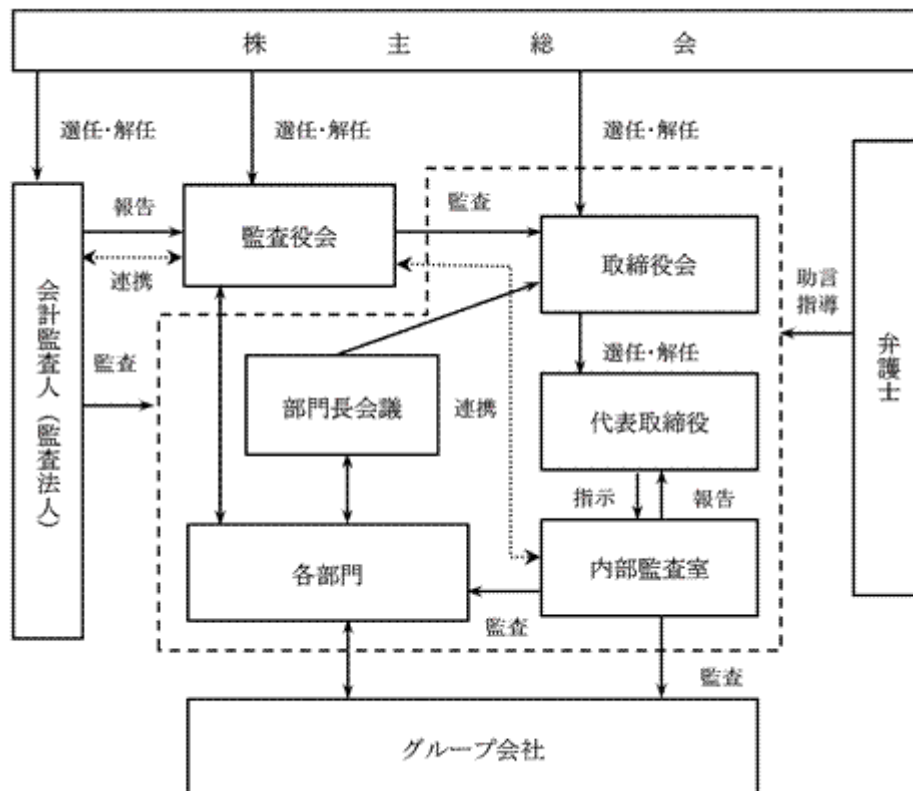
また、平成18年5月1日に会社法が施行されたことに伴い、平成18年5月19日開催の取締役会において「内部統制の基本方針」を決議しております。

#### 企業統治の体制

##### イ．会社の機関の基本説明

当社は監査役設置会社であります。当社は、監査役会を設置し、社外監査役を含めた監査役による監査体制が経営監視機能として有効であると判断し、監査役設置会社形態を採用しております。取締役会は7名の取締役で構成し、経営の基本方針、法令で定められた事項や、そのほか経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行状況を監督する機関と位置付けております。監査役は4名で、取締役の業務執行について、厳正な監視を行っております。具体的には、毎月の取締役会その他重要な会議に出席するほか、代表取締役との意見交換、内部監査部門及び会計監査人との情報交換等を図り、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧するなど、本社及び主要な事業所において監査を実施しております。

##### ロ．会社の機関・内部統制の関係



##### ハ．会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社の経営上の重要事項は、部門長会議にて審議し取締役会にて決裁される仕組みになっており、監査役会がこれを監査し、公正な経営の実現に向けた組織体制を採っております。

また、当社及び関係会社が様々な企業活動を行っていく上で、取締役及び使用人が遵守すべき行動規範として、「コンプライアンス基本方針」を定めるとともに、取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制に関する基本規程として「コンプライアンス（法令遵守）規程」を制定し、周知に努めております。

二．内部監査及び監査役監査の状況

監査役4名のうち2名は常勤監査役として常時勤務し、非常勤監査役2名も取締役会に毎月出席するなど、取締役の職務執行を十分に監視できる体制になっており、各事業所への監査も定期的に行っております。また、監査役は、会計監査人より定期的に会計監査の方法と結果の報告を受けるなど、相互連携に努めております。

内部監査については、社長直轄組織として3名で構成される内部監査室を設置し、内部監査規程に基づき監査計画を立て監査を実施しており、代表取締役に対して監査報告書を提出しております。また、監査役は内部監査室との連携を図り、適切な意思疎通及び効果的監査業務の遂行を図っております。

ホ．会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は有限責任 あずさ監査法人に属しており、業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務にかかる補助者の構成については以下のとおりであります。また、同監査法人及び当社監査に従事する業務執行社員と当社との間には特別の利害関係はありません。

業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 都甲 孝一

指定有限責任社員 業務執行社員 永井 勝

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 6人 その他 8人

ヘ．社外取締役及び社外監査役との関係

コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的・中立的な経営監視の機能が重要と考えております。

当社は社外取締役を選任しておりませんが、監査役4名のうち3名を社外監査役としております。

社外監査役村中淳男氏は、金融機関において責任ある職歴をふまれ、豊富な実績、見識を有しておられ、その実績と見識を活かした社外監査役としての監督機能および役割を果たしていただけると考えております。当社との間には特別な関係はございません。

社外監査役山岡通浩氏は、弁護士としての専門的な知識、経験を当社経営に反映していただくため、社外監査役として選任しております。（山岡監査役の近親者は当社との間で顧問弁護士契約を結んでおり、その報酬は年間で約4百万円となっております。）

社外監査役宇根篤暢氏は、会社の経営に関与した経験はありませんが、機械工学研究における高度な専門知識と豊富な経験を有しており、技術開発関連分野において、取締役の職務執行の監視が出来、社外監査役としての職務を適切に遂行していただけると考えております。当社との間に特別な関係はございません。

当該社外監査役による監査が実施されることにより、外部からの経営の監視機能が十分に発揮される体制が整っております。なお、今後、経営の透明性・客観性等をより高めるために、社外取締役の登用を検討していきたいと考えております。

社外監査役3名は、就任前に当社の役員又は使用人になったことがない外部からの招聘であり、客観的な立場で監査機関として機能しております。なお、社外監査役として弁護士を選任し、必要に応じてアドバイスを受けております。

なお、当社は社外取締役または社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準または方針については特に定めておりません。

リスク管理体制の整備の状況

当社及び関係会社のリスクを把握し、これによる影響を低減、回避するため、リスクの分析や対策案の検討を行う「リスク管理委員会」を設置しております。また、業務の円滑な運営に資することを目的として「リスク管理規程」を定め、社内に周知させるなどリスク管理体制の整備に努めております。

役員報酬の内容

イ．当社の取締役及び監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	156	156				8
監査役 (社外監査役を除く。)	11	11				1
社外監査役	24	24				3

(注) 1．取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

ロ．使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額（百万円）	対象となる役員の員数（人）	内容
42	4	使用人としての給与であります。

ハ．役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

1．取締役の報酬

取締役の報酬は、株主総会で決議された取締役報酬限度額の範囲内で、その具体的金額については役位、在勤年数等に応じた一定の基準に基づき算出し、会社業績等を勘案し決定しております。

2．監査役の報酬

監査役の報酬は、株主総会で決議された監査役報酬限度額の範囲内で、その具体的金額については監査役の協議により決定しております。

なお、当社は、平成20年6月27日開催の第109期定時株主総会終結の時をもって役員退職慰労金制度を廃止しております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
該当事項はありません。

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
MS&ADインシュアランスグループホールディングス株	41,256	78	取引関係の維持

（注）ニッセイ同和損害保険株式会社は、平成22年4月1日付でMS & A Dインシュアランスグループホールディングス株式会社と株式交換を行い、同社の完全子会社となっております。

当事業年度

該当事項はありません。

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 （百万円）	当事業年度（百万円）			
	貸借対照表計 上額の合計額	貸借対照表計 上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	9	7	0	2	（注）
上記以外の株式	10	9	0	-	1

（注）非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「評価損益の合計額」は記載していません。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨定款に定めております。

自己株式取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己株式を取得できる旨定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするためであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	65	-	60	-
連結子会社	-	-	-	-
計	65	-	60	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるOKAMOTO ( SINGAPORE ) PTE, LTD.、OKAMOTO ( THAI ) CO., LTD.、OKAMOTO CORPORATION、OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBHは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGに対して、監査及びレビューに係る報酬として、23百万円の対価を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社であるOKAMOTO ( SINGAPORE ) PTE, LTD.、OKAMOTO ( THAI ) CO., LTD.、OKAMOTO CORPORATION、OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBHは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGに対して、監査及びレビューに係る報酬として、21百万円の対価を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日程等を勘案した上で決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、適時、改正等に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、連結財務諸表等の適正性の確保に努めております。

また、公益財団法人財務会計基準機構の行う研修に参加しております。

1【連結財務諸表等】  
 (1)【連結財務諸表】  
 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,648	2,964
受取手形及び売掛金	5,068	4 7,554
商品及び製品	1,285	1,225
仕掛品	3,125	3,062
原材料及び貯蔵品	2,386	2,694
繰延税金資産	21	65
未収入金	52	29
その他	283	322
貸倒引当金	60	54
流動資産合計	17,811	17,864
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 11,941	2 11,915
減価償却累計額	7,568	7,871
建物及び構築物(純額)	4,373	4,044
機械装置及び運搬具	2 11,614	2 12,580
減価償却累計額	8,942	9,687
機械装置及び運搬具(純額)	2,671	2,892
工具、器具及び備品	2 2,903	2 2,954
減価償却累計額	2,622	2,715
工具、器具及び備品(純額)	280	239
土地	2 1,494	2 1,487
リース資産	1,189	519
減価償却累計額	483	219
リース資産(純額)	705	299
建設仮勘定	111	50
有形固定資産合計	9,637	9,013
無形固定資産		
無形固定資産合計	133	123
投資その他の資産		
投資有価証券	2, 1 347	1 207
長期貸付金	63	63
その他	1 645	1 674
貸倒引当金	21	20
投資その他の資産合計	1,035	925
固定資産合計	10,805	10,062
資産合計	28,616	27,927



	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,613	4 3,487
短期借入金	2 9,356	2 10,558
1年内返済予定の長期借入金	2 3,464	2 1,306
リース債務	246	106
未払法人税等	144	199
賞与引当金	166	166
その他	1,079	1,018
流動負債合計	17,071	16,842
固定負債		
長期借入金	2 2,132	2 1,799
リース債務	176	159
退職給付引当金	1,032	1,001
資産除去債務	78	79
その他	183	144
固定負債合計	3,603	3,184
負債合計	20,675	20,026
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,880	4,880
利益剰余金	6,209	6,293
自己株式	1,342	1,343
株主資本合計	9,747	9,830
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39	2
為替換算調整勘定	1,844	1,927
その他の包括利益累計額合計	1,805	1,929
純資産合計	7,941	7,901
負債純資産合計	28,616	27,927

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	18,248	24,151
売上原価	13,750 <sub>1</sub>	18,421 <sub>1</sub>
売上総利益	4,498	5,729
販売費及び一般管理費	4,966 <sub>2, 3</sub>	4,955 <sub>2, 3</sub>
営業利益又は営業損失( )	467	774
営業外収益		
受取利息	4	5
受取配当金	208	4
受取賃貸料	3	3
物品売却益	13	19
保険解約返戻金	94	-
雑収入	76	38
営業外収益合計	402	72
営業外費用		
支払利息	321	294
支払手数料	51	79
為替差損	116	144
雑損失	115	55
営業外費用合計	604	575
経常利益又は経常損失( )	670	271
特別利益		
固定資産売却益	24 <sub>4</sub>	5 <sub>4</sub>
投資有価証券売却益	174	57
貸倒引当金戻入額	3	-
保険差益	79	-
特別利益合計	282	63
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	42	-
特別損失合計	42	-
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	430	334
法人税、住民税及び事業税	206	313
法人税等調整額	6	62
法人税等合計	213	250
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失( )	644	84
当期純利益又は当期純損失( )	644	84

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失( )	644	84
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	57	41
為替換算調整勘定	191	82
その他の包括利益合計	248	123
包括利益	893	39
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	893	39

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	4,880	4,880
当期末残高	4,880	4,880
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	6,854	6,209
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失( )	644	84
当期変動額合計	644	84
当期末残高	6,209	6,293
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1,340	1,342
当期変動額		
自己株式の取得	2	1
当期変動額合計	2	1
当期末残高	1,342	1,343
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	10,394	9,747
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失( )	644	84
自己株式の取得	2	1
当期変動額合計	646	83
当期末残高	9,747	9,830
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	96	39
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	57	41
当期変動額合計	57	41
当期末残高	39	2
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	1,653	1,844
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	191	82
当期変動額合計	191	82
当期末残高	1,844	1,927
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	1,556	1,805
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	248	123

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期変動額合計	248	123
当期末残高	1,805	1,929
純資産合計		
当期首残高	8,837	7,941
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失( )	644	84
自己株式の取得	2	1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	248	123
当期変動額合計	895	40
当期末残高	7,941	7,901

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	430	334
減価償却費	1,145	1,162
退職給付引当金の増減額( は減少)	20	29
賞与引当金の増減額( は減少)	23	0
貸倒引当金の増減額( は減少)	26	5
受取利息及び受取配当金	213	10
保険返戻金	94	-
支払利息	321	294
支払手数料	51	79
為替差損益( は益)	99	51
固定資産処分損益( は益)	20	3
投資有価証券売却損益( は益)	174	57
保険差益	79	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	42	-
売上債権の増減額( は増加)	688	2,540
たな卸資産の増減額( は増加)	1,730	263
その他の資産の増減額( は増加)	98	78
仕入債務の増減額( は減少)	695	883
未払消費税等の増減額( は減少)	13	23
その他の負債の増減額( は減少)	244	41
その他	35	4
小計	651	204
利息及び配当金の受取額	172	10
利息の支払額	322	299
保険返戻金の受取額	96	-
保険金の受取額	151	-
法人税等の支払額	106	267
法人税等の還付額	42	66
営業活動によるキャッシュ・フロー	686	694

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	704	766
定期預金の払戻による収入	690	1,052
有形固定資産の取得による支出	452	480
有形固定資産の売却による収入	30	7
無形固定資産の取得による支出	33	9
投資有価証券の取得による支出	1	0
投資有価証券の売却による収入	246	131
貸付金の回収による収入	22	8
長期前払費用の取得による支出	7	7
保険積立金の積立による支出	97	30
その他	8	11
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>315</b>	<b>84</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	511	1,170
長期借入れによる収入	260	1,108
長期借入金の返済による支出	1,793	3,599
リース債務の返済による支出	265	239
手数料の支払による支出	13	74
その他	3	1
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,304</b>	<b>1,637</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	79	23
<b>現金及び現金同等物の増減額（ は減少）</b>	<b>1,012</b>	<b>2,439</b>
現金及び現金同等物の期首残高	5,878	4,865
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>4,865</b>	<b>2,425</b>

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社（7社）は、下記のとおりであります。

OKAMOTO CORPORATION  
OKAMOTO (SINGAPORE) PTE,LTD.  
岡本工機(株)  
OKAMOTO (THAI) CO.,LTD.  
(株)ニッショー  
OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH  
技研(株)

また、非連結子会社(株)グラインデックスコーポレーション、(株)エム・シー・エス、OKAMOTO ENGINEERING CO., LTD.、岡本工機（常州）有限公司の4社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産・売上高・当期純損益及び利益剰余金等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲より除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

非連結子会社(株)グラインデックスコーポレーション、(株)エム・シー・エス、OKAMOTO ENGINEERING CO.,LTD.、岡本工機（常州）有限公司の4社及び持分法非適用関連会社GREEN EARTH THERMODYNAMICS CO.,LTD.は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金等（持分に見合う額）が連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用を除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、すべて連結決算日（3月31日）と同一であります。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

イ 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

ロ その他有価証券

時価のあるもの.....連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの.....移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

評価基準は、当社及び国内連結子会社は原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法）、在外連結子会社は低価法によっております。

イ 商品及び製品

当社及び国内連結子会社.....機械本体は原則として個別法

附属品その他は主として移動平均法

在外連結子会社.....主として先入先出法並びに個別法

ロ 仕掛品

当社及び国内連結子会社.....主として個別法

在外連結子会社.....主として先入先出法

ハ 原材料及び貯蔵品

当社及び国内連結子会社.....主として移動平均法

在外連結子会社.....主として先入先出法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社.....定額法

在外連結子会社.....定額法

国内連結子会社.....定率法

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）については、定額法

なお、耐用年数については、法人税法に規定する年数と同一の年数によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）及び長期前払費用

当社及び国内連結子会社.....定額法



ただし、自社利用のソフトウェアの減価償却の方法については社内における利用可能期間(5年間)に基づく定額法によっております。一方、市場販売目的のソフトウェアについては見込販売数量に基づく償却額と、残存見込販売有効期間に基づく均等償却額との、いずれか大きい金額を計上しております。なお、当連結会計年度末における見込販売有効期間は3年としております。

在外連結子会社……定額法

#### リース資産

##### イ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

##### ロ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、当社及び国内連結子会社に係る所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

#### (3) 重要な引当金の計上基準

##### 貸倒引当金

当社及び国内連結子会社

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

在外連結子会社

個別に検討して得た損失見込額を計上しております。

##### 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

##### 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(14年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理することとしております。

#### (4) 重要な収益及び費用の計上基準

##### 売上高及び売上原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

……工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

その他の工事……工事完成基準

#### (5) 重要なヘッジ会計の方法

##### ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

##### ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……金利スワップ

ヘッジ対象……借入金利息

##### ヘッジ方針

当社の内部規程である「市場リスク管理規程」に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

##### ヘッジの有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

#### (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

#### (7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

##### 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

## 【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	130百万円	130百万円
その他(出資金)	212百万円	212百万円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	2,328百万円	2,174百万円
機械装置及び運搬具	428	516
土地	1,450	1,444
投資有価証券	78	-
計	4,286	4,134

また、上記担保資産の他、安中工場財団形成物件は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	1,731百万円	1,579百万円
機械装置及び運搬具	1,237	1,096
工具、器具及び備品	43	57
計	3,012	2,733

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	5,855百万円	6,056百万円
長期借入金(一年内返済予定額を含む)	1,994	2,044
割引手形	70	40
銀行保証	53	82
計	7,974	8,223

3 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形割引高	70百万円	40百万円
受取手形裏書譲渡高	384百万円	300百万円

4 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	93百万円
支払手形	-	466
受取手形裏書譲渡高	-	41

- 5 平成24年3月27日締結で平成25年3月29日を期日とするタームローン契約には、当連結会計年度末日及び平成25年3月期第2四半期末日において、連結貸借対照表の株主資本の金額を、7,534百万円以上に維持する旨の条項が付されております。

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損(は戻入額)が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	127百万円	414百万円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
荷造発送費	665百万円	632百万円
給料手当	1,218	1,305
賞与引当金繰入額	34	32
退職給付費用	103	105
減価償却費	71	59
貸倒引当金繰入額	15	6

- 3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	273百万円	127百万円

なお、製造費用に含まれるものはありません。

- 4 固定資産売却益の主な内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	23百万円	4百万円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額	
その他有価証券評価差額金：	
当期発生額	12百万円
組替調整額	55
税効果調整前	67
税効果額	26
その他有価証券評価差額金	41
為替換算調整勘定：	
当期発生額	82
その他の包括利益合計	123

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	47,178	-	-	47,178
合計	47,178	-	-	47,178
自己株式				
普通株式(注)	2,788	18	-	2,807
合計	2,788	18	-	2,807

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加18千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	47,178	-	-	47,178
合計	47,178	-	-	47,178
自己株式				
普通株式(注)	2,807	8	-	2,815
合計	2,807	8	-	2,815

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加8千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	5,648百万円	2,964百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	782	495
当座借越	-	43
現金及び現金同等物	4,865	2,425

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

1. 所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として生産設備(「機械装置及び運搬具」)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として生産設備、測定機器(「機械装置及び運搬具」、「工具、器具及び備品」)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	160	110	50
工具、器具及び備品	74	57	16
(無形固定資産) その他	16	15	0
合計	251	182	68

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

(単位：百万円)

	当連結会計年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	154	130	24
工具、器具及び備品	56	49	7
合計	211	179	31

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	36	25
1年超	31	5
合計	68	31

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い  
 ため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	51	36
減価償却費相当額	51	36

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業計画に照らして、必要な資金を銀行等金融機関からの借入により調達し、一時的な余資の運用は短期的な預金等に限定しております。また、デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが5ヶ月以内の支払期日であります。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に運転資金、設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は、おおむね決算日後6年以内であります。このうち短期借入金及び一部の長期借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、短期借入金については短期決済のためリスクは限定されており、長期借入金についてはデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (5)重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

当社は、与信管理ルール及び売掛金管理ルールに従い、営業債権について、営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の与信管理ルール及び売掛金管理ルールに準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

市場リスクの管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、期日及び残高を管理するとともに、実需の範囲内で先物為替予約を利用してヘッジしております。また、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、一部、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、「ヘッジ取引要領」に従い、管理部が担当取締役の承認を得て実行し、その管理を担当しております。

資金調達に係る流動性リスクの管理

当社グループでは、各社が毎月資金繰計画を作成・更新するとともに、一定の手許流動性を維持するなどの方法により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。



2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	5,648	5,648	-
(2) 受取手形及び売掛金	5,068	5,068	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	208	208	-
資産計	10,925	10,925	-
(1) 支払手形及び買掛金	2,613	2,613	-
(2) 短期借入金	9,356	9,356	-
(3) 長期借入金	5,597	5,505	92
負債計	17,567	17,475	92
デリバティブ取引	-	-	-

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	2,964	2,964	-
(2) 受取手形及び売掛金	7,554	7,554	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	70	70	-
資産計	10,589	10,589	-
(1) 支払手形及び買掛金	3,487	3,487	-
(2) 短期借入金	10,558	10,558	-
(3) 長期借入金	3,105	3,013	92
負債計	17,151	17,059	92
デリバティブ取引	-	-	-

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価は、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

## 負債

### (1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### (3) 長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記「デリバティブ取引」参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いた現在価値により算定しております。

### デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております（上記、「負債（3）長期借入金」参照）。

## 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：百万円）

区分	前連結会計年度 （平成23年3月31日）	当連結会計年度 （平成24年3月31日）
非上場株式	139	137

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「（3）投資有価証券」には含めておりません。

## 3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	1年以内 （百万円）	1年超 5年以内 （百万円）	5年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
現金及び預金	5,648	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,068	-	-	-
合計	10,716	-	-	-

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 （百万円）	1年超 5年以内 （百万円）	5年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
現金及び預金	2,964	-	-	-
受取手形及び売掛金	7,554	-	-	-
合計	10,519	-	-	-

## 4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券  
該当事項はありません。
2. 満期保有目的の債券  
該当事項はありません。
3. その他有価証券  
前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	152	80	71
	(2) 債券			
	国債・地方債	-	-	-
	等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	152	80	71
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	56	62	6
	(2) 債券			
	国債・地方債	-	-	-
	等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	56	62	6
合計		208	143	65

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 9百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 当連結会計年度（平成24年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	11	7	3
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	11	7	3
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	59	64	5
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	59	64	5
	合計	70	72	2

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 7百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 4. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
(1) 株式	246	174	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	246	174	-

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	127	55	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	127	55	-

（注）上記の売却したその他有価証券には、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式については、含めておりません。

（デリバティブ取引関係）

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度（平成23年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 （百万円）	契約額等の うち1年超 （百万円）	時価 （百万円）
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	420	300	（注）

（注）金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 （百万円）	契約額等の うち1年超 （百万円）	時価 （百万円）
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	471	313	（注）

（注）金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、昭和61年3月期(第87期)から適格退職年金制度を採用していましたが、平成22年1月に確定給付型企業年金制度へ移行しております。

国内連結子会社については、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を採用しております。

また、このほかに当社及び一部の国内連結子会社では、国の厚生年金保険の代行部分を含む総合設立型の厚生年金基金である日本工作機械関連工業厚生年金基金に加入しております。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

当該事項は、入手可能な直近時点(貸借対照表日以前の最新時点)の年金財政計算に基づく実際数値であり、前連結会計年度は平成22年3月31日現在、当連結会計年度は平成23年3月31日現在の数値であります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
年金資産の額(百万円)	108,492	105,046
年金財政計算上の給付債務の額(百万円)	136,167	132,729
差引額(百万円)	27,675	27,683

(2) 制度全体に占める当社及び一部の国内子会社の掛金拠出割合

前連結会計年度	1.3%	(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
当連結会計年度	1.2%	(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は前連結会計年度においては年金財政計算上の過去勤務債務残高25,571百万円、資産評価調整加算額15,407百万円、財政上の不足額 13,202百万円であり、当連結会計年度においては年金財政上の未償却過去勤務債務残高26,082百万円、資産評価調整加算額5,338百万円、財政上の不足額 3,737百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1)退職給付債務(百万円)	2,852	3,125
(2)年金資産(百万円)	1,423	1,664
(3)未積立退職給付債務(百万円)(1)+(2)	1,428	1,460
(4)未認識数理計算上の差異(百万円)	396	459
(5)連結貸借対照表計上額純額(百万円)(3)+(4)	1,032	1,001
(6)前払年金費用(百万円)	-	-
(7)退職給付引当金(百万円)(5)-(6)	1,032	1,001

(注) 国内連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
(1)勤務費用(百万円)(注)	161	178
(2)利息費用(百万円)	38	41
(3)期待運用収益(百万円)	25	31
(4)数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	60	64
(5)厚生年金基金拠出額(百万円)	110	126
(6)退職給付費用(百万円)(1)+(2)+(3)+(4)+(5)	346	380

(注) 簡便法を採用している国内連結子会社の退職給付費用を含んでおります。

## 4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1)退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
(2)割引率(%)	2.0%	1.5%
(3)期待運用収益率(%)	2.5%	2.5%
(4)数理計算上の差異の処理年数(年)	14年	14年

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産評価損否認	717百万円	514百万円
貸倒引当金損金算入限度超過額	22	21
退職給付引当金	396	329
長期未払金	54	47
未実現利益	92	100
有価証券評価損否認	4	2
繰越欠損金	1,377	1,451
その他	435	541
繰延税金資産小計	3,101	3,009
評価性引当額	2,985	2,840
繰延税金資産合計	116	168
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	26	-
固定資産圧縮積立金	6	4
その他	29	21
繰延税金負債合計	62	26
繰延税金資産の純額	53	142

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	-	40.4%
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	4.2
住民税均等割	-	5.7
海外連結子会社の優遇税制に伴う免税額	-	9.3
海外連結子会社の適用税率差	-	14.1
評価性引当額	-	50.0
その他	-	0.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	77.7

前連結会計年度は、税金等調整前当期純損失が計上されているため注記を記載しておりません。

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については37.8%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.4%となります。

なお、この税率の変更による影響は軽微であります。



(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

石綿障害予防規則等に伴う建物解体時におけるアスベスト除去費用等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を建物の耐用年数(取得から10年~39年)と見積り、割引率は0.84%~2.29%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
期首残高(注)	77百万円	78百万円
時の経過による調整額	1	1
期末残高	78	79

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(セグメント情報等)  
【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、生産設備に関する機械装置の生産・販売を中心に事業展開しております。したがって、当社は、当社製品を用いて加工する対象物を基準とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「工作機械事業」及び「半導体関連装置事業」の2つを報告セグメントとしております。

「工作機械事業」は、主に研削盤、歯車機械及び歯車を生産・販売しております。「半導体関連装置事業」は、主に半導体・電子部品加工研削盤、ガラス基板研磨装置、太陽光発電用インゴット加工装置、スライディングマシンを生産・販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であり、報告セグメントの利益又は損失( )は、営業損益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額(注)2
	工作機械	半導体 関連装置	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,981	4,266	18,248	-	18,248
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	(-)	-
計	13,981	4,266	18,248	(-)	18,248
セグメント利益又は損失( )	471	224	246	714	467
セグメント資産	17,394	4,946	22,340	6,275	28,616
その他の項目					
減価償却費	906	236	1,143	1	1,145
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	391	49	440	2	443

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失( )の調整額 714百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額6,275百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金(現金預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び有形固定資産等であります。
- (3) その他の項目の減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社に係るものであります。

2. セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額(注)2
	工作機械	半導体 関連装置	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,128	5,023	24,151	-	24,151
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	(-)	-
計	19,128	5,023	24,151	(-)	24,151
セグメント利益	1,476	72	1,549	774	774
セグメント資産	19,381	4,992	24,373	3,553	27,927
その他の項目					
減価償却費	946	214	1,161	1	1,162
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	527	74	602	0	602

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 774百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額3,553百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金（現金預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び有形固定資産等であります。
- (3) その他の項目の減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社に係るものであります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	北米	アジア	ヨーロッパ	その他	合計
9,063	2,560	5,861	621	142	18,248

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	北米	東南アジア	ヨーロッパ	合計
5,544	201	3,887	4	9,637

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	アジア	ヨーロッパ	その他	合計
11,576	2,784	8,609	1,062	119	24,151

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	北米	東南アジア	ヨーロッパ	合計
5,255	195	3,559	3	9,013

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	178円98銭	178円10銭
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失( )	14円52銭	1円90銭

(注) 1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益又は当期純損失( )(百万円)	644	84
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失( )(百万円)	644	84
期中平均株式数(千株)	44,381	44,367

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	9,356	10,558	1.98	-
1年以内に返済予定の長期借入金	3,464	1,306	2.22	-
1年以内に返済予定のリース債務	246	106	2.66	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,132	1,799	2.37	平成25年～平成28年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	176	159	2.94	平成25年～平成29年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	15,377	13,929	-	-

(注) 1. 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後、5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	697	851	196	54
リース債務	74	53	15	15

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	4,278	10,215	16,377	24,151
税金等調整前四半期(当期)純利益又は税金等調整前四半期純損失( )(百万円)	578	894	919	334
四半期(当期)純利益又は四半期純損失( )(百万円)	576	941	1,024	84
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失( )(円)	13.00	21.22	23.08	1.90

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( )(円)	13.00	8.21	1.86	24.98

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,169	1,126
受取手形	415	4 644
売掛金	5 3,048	5 3,811
商品及び製品	480	517
仕掛品	2,194	2,405
原材料及び貯蔵品	624	438
前払費用	117	113
関係会社短期貸付金	58	1,315
未収入金	82	68
その他	55	100
貸倒引当金	19	18
流動資産合計	10,227	10,523
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 6,377	1 6,386
減価償却累計額	4,345	4,518
建物(純額)	2,031	1,867
構築物	1 376	1 376
減価償却累計額	343	349
構築物(純額)	32	27
機械及び装置	1 4,313	1 4,385
減価償却累計額	3,075	3,287
機械及び装置(純額)	1,237	1,097
工具、器具及び備品	1 1,540	1 1,587
減価償却累計額	1,481	1,516
工具、器具及び備品(純額)	59	70
土地	1 1,009	1 1,009
リース資産	104	110
減価償却累計額	36	53
リース資産(純額)	68	57
建設仮勘定	17	0
有形固定資産合計	4,456	4,130
無形固定資産		
ソフトウェア	64	66
リース資産	27	20
その他	12	12
無形固定資産合計	104	99
投資その他の資産		
投資有価証券	1 97	17
関係会社株式	6,844	6,844

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
関係会社出資金	306	306
関係会社長期貸付金	2,639	2,494
長期前払費用	29	21
その他	203	222
貸倒引当金	482	482
投資その他の資産合計	9,637	9,422
固定資産合計	14,198	13,652
資産合計	24,426	24,176
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	5 1,067	4, 5 2,174
買掛金	5 1,087	5 1,196
短期借入金	1 7,129	1, 5 8,598
1年内返済予定の長期借入金	1 3,244	1 982
リース債務	23	24
未払金	331	281
未払費用	76	49
未払法人税等	20	26
繰延税金負債	19	17
前受金	58	72
預り金	30	31
賞与引当金	46	46
流動負債合計	13,137	13,501
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1 1,523	1 1,421
リース債務	79	60
繰延税金負債	23	11
退職給付引当金	457	406
債務保証損失引当金	285	274
資産除去債務	3	4
その他	128	121
固定負債合計	2,501	2,300
負債合計	15,638	15,801



	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,880	4,880
利益剰余金		
利益準備金	128	128
その他利益剰余金		
別途積立金	6,000	6,000
繰越利益剰余金	1,096	1,493
利益剰余金合計	5,031	4,634
自己株式	1,137	1,138
株主資本合計	8,775	8,376
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11	1
評価・換算差額等合計	11	1
純資産合計	8,787	8,374
負債純資産合計	24,426	24,176

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	4 10,914	4 14,400
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	313	480
当期製品製造原価	4 6,620	4 9,551
当期商品仕入高	4 2,568	4 2,093
合計	9,502	12,126
他勘定振替高	14	30
商品及び製品期末たな卸高	480	517
売上原価合計	1 9,036	1 11,578
売上総利益	1,878	2,822
販売費及び一般管理費	2, 3 3,325	2, 3 3,319
営業損失( )	1,447	496
営業外収益		
受取利息	4 72	4 99
受取配当金	4 206	4 301
保険解約返戻金	94	-
受取手数料	4 50	4 53
受取賃貸料	7	6
雑収入	22	18
営業外収益合計	454	479
営業外費用		
支払利息	224	213
支払手数料	51	79
賃貸費用	4	4
為替差損	48	62
貸倒引当金繰入額	8	-
雑損失	96	37
営業外費用合計	432	397
経常損失( )	1,425	415
特別利益		
固定資産売却益	5 13	-
投資有価証券売却益	174	16
債務保証損失引当金戻入額	6 6	6 10
貸倒引当金戻入額	0	-
特別利益合計	195	27
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2	-
特別損失合計	2	-
税引前当期純損失( )	1,232	387
法人税、住民税及び事業税	17	15
法人税等調整額	4	4
法人税等合計	12	10
当期純損失( )	1,245	397

## 【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
材料費			4,110	57.1	6,264	62.7
労務費			870	12.1	1,026	10.3
経費						
1. 外注加工費		1,241			1,743	
2. 減価償却費		408		414		
3. その他		564	2,214	30.8	537	27.0
当期総製造費用			7,194	100.0	9,987	100.0
期首仕掛品たな卸高			2,040		2,194	
合計			9,234		12,182	
他勘定振替高	1		419		225	
期末仕掛品たな卸高			2,194		2,405	
当期製品製造原価			6,620		9,551	

## 原価計算の方法

当社の原価計算は、個別原価計算制度を採用し、材料費、労務費、経費の原価要素中、製造直接費は各オーダーに賦課し、製造間接費は、直接作業時間によって各オーダーに配賦しております。

(注) 1. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
販売費及び一般管理費勘定 (百万円)	312	145
有形固定資産勘定 (百万円)	34	39
その他勘定 (百万円)	72	40
合計 (百万円)	419	225

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	4,880	4,880
当期末残高	4,880	4,880
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	128	128
当期末残高	128	128
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	6,000	6,000
当期末残高	6,000	6,000
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	149	1,096
当期変動額		
当期純損失( )	1,245	397
当期変動額合計	1,245	397
当期末残高	1,096	1,493
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	6,277	5,031
当期変動額		
当期純損失( )	1,245	397
当期変動額合計	1,245	397
当期末残高	5,031	4,634
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1,134	1,137
当期変動額		
自己株式の取得	2	1
当期変動額合計	2	1
当期末残高	1,137	1,138
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	10,023	8,775
当期変動額		
当期純損失( )	1,245	397
自己株式の取得	2	1
当期変動額合計	1,247	398
当期末残高	8,775	8,376

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	74	11
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	63	13
当期変動額合計	63	13
当期末残高	11	1
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期首残高	74	11
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	63	13
当期変動額合計	63	13
当期末残高	11	1
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	10,098	8,787
当期変動額		
当期純損失（ ）	1,245	397
自己株式の取得	2	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	63	13
当期変動額合計	1,310	412
当期末残高	8,787	8,374

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
  - (1) 子会社株式及び関連会社株式  
移動平均法による原価法
  - (2) その他有価証券  
時価のあるもの  
期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)  
時価のないもの  
移動平均法による原価法
2. デリバティブの評価基準及び評価方法  
時価法
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法  
評価基準は原価法(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。
  - (1) 商品及び製品  
機械本体は個別法、附属品その他は移動平均法
  - (2) 仕掛品  
個別法
  - (3) 原材料及び貯蔵品  
移動平均法
4. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産(リース資産を除く)  
定額法を採用しております。  
なお、耐用年数については、法人税法に規定する年数と同一の年数によっております。
  - (2) 無形固定資産(リース資産を除く)及び長期前払費用  
定額法を採用しております。  
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。一方、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売数量に基づく償却額と、残存見込販売有効期間に基づく均等償却額との、いずれか大きい金額を計上しております。なお、当事業年度末における見込販売有効期間は3年としております。
  - (3) リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
5. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 賞与引当金  
従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額の当期負担額を計上しております。
  - (3) 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(14年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度より費用処理することとしております。
  - (4) 債務保証損失引当金  
関係会社への債務保証等に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

6．収益及び費用の計上基準

売上高及び売上原価の計上基準

- 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
.....工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
- その他の工事.....工事完成基準

7．ヘッジ会計の方法

(1)ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

(2)ヘッジ手段とヘッジ対象

- ヘッジ手段.....金利スワップ
- ヘッジ対象.....借入金利息

(3)ヘッジ方針

当社の内部規程である「市場リスク管理規程」に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

(4)ヘッジの有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

8．その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産(簿価)は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	203百万円	191百万円
構築物	0	0
土地	1,007	1,007
投資有価証券	78	-
計	1,289	1,199

上記の他、安中工場財団形成物件は下記のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	1,699百万円	1,552百万円
構築物	32	26
機械及び装置	1,237	1,096
工具、器具及び備品	43	57
計	3,012	2,733

上記の財団形成物件を含む担保資産に対応する債務は下記のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	4,332百万円	4,490百万円
長期借入金(1年以内返済予定分を含む)	1,467	1,610
計	5,799	6,100

2. 保証債務は次のとおりであります。

前事業年度 (平成23年3月31日)			当事業年度 (平成24年3月31日)		
相手先	内容	期末現在高 (百万円)	相手先	内容	期末現在高 (百万円)
岡本工機株式会社	銀行借入金	1,317	岡本工機株式会社	銀行借入金	1,425
	受取手形割引高	40		受取手形割引高	5
OKAMOTO (THAI) CO.,LTD.	銀行借入金	285	OKAMOTO (THAI) CO.,LTD.	銀行借入金	257
		(THB 84,401千)			(THB 77,901千)
株式会社ニッショー 技研株式会社	銀行借入金	300	株式会社ニッショー 技研株式会社	銀行借入金	288
OKAMOTO(SINGAPORE) PTE.,LTD.	銀行借入金	632	OKAMOTO(SINGAPORE) PTE.,LTD.	銀行借入金	568
		379			375
		(S\$ 5,750千)			(S\$ 5,750千)
OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH	銀行借入金	23	OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH	銀行借入金	43
		(EUR 200千)			(EUR 400千)
	債務保証損失引当 金	285		債務保証損失引当 金	274
合計		2,693	合計		2,689



3 受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形裏書譲渡高	223百万円	90百万円

4 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当期の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	93百万円
支払手形	-	491
受取手形裏書譲渡高	-	5

5 関係会社に係る注記

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
売掛金	692百万円	328百万円
支払手形	186	391
買掛金	540	751
短期借入金	-	500

6 配当制限

平成24年3月27日締結で平成25年3月29日を期日とするタームローン契約には、当連結会計年度末日及び平成25年3月期第2四半期末日において、連結貸借対照表の株主資本の金額を、7,534百万円以上に維持する旨の条項が付されております。

(損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損(は戻入益)が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	142百万円	403百万円

- 2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度35.3%、当事業年度35.4%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度64.7%、当事業年度64.6%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
荷造発送費	261百万円	245百万円
給料手当	760	825
賞与引当金繰入額	20	20
退職給付費用	97	95
減価償却費	38	34
旅費交通費	203	237
販売手数料	381	340
サービス費	116	161
研究開発費	273	118
役員報酬	185	193

- 3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	273百万円	118百万円

なお、製造費用に含まれるものはありません。

- 4 関係会社との取引に係るもの

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	2,454百万円	2,287百万円
仕入高	3,957	3,981
受取利息	71	99
受取配当金	200	298
受取手数料	50	53

- 5 固定資産売却益の主な内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
機械及び装置	12百万円	-百万円

- 6 債務保証損失引当金戻入額は、関係会社の財政状態が改善したための引当金取崩によるものであります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)	2,788	18	-	2,807
合計	2,788	18	-	2,807

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加18千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)	2,807	8	-	2,815
合計	2,807	8	-	2,815

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加8千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(リース取引関係)  
ファイナンス・リース取引  
所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として生産設備(「機械及び装置」)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車輛運搬具	10	8	1
工具、器具及び備品	74	57	16
ソフトウェア	16	15	0
合計	100	81	19

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(単位：百万円)

	当事業年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車輛運搬具	4	3	0
工具、器具及び備品	56	49	7
合計	61	52	8

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2)未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	11	8
1年超	8	-
合計	19	8

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3)支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	19	11
減価償却費相当額	19	11

(4)減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(有価証券関係)

子会社株式及び関係会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式6,844百万円、関係会社出資金306百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式 6,844百万円、関係会社出資金306百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産評価損否認	627百万円	453百万円
貸倒引当金損金算入限度超過額	202	177
退職給付引当金	184	143
長期未払金	49	43
債務保証損失引当金	115	97
繰越欠損金	1,283	1,413
その他	215	295
繰延税金資産小計	2,678	2,624
評価性引当額	2,678	2,624
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	7	-
その他	34	29
繰延税金負債合計	42	29
繰延税金資産の純額	42	29

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳  
税引前当期純損失が計上されているため、記載しておりません。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については37.8%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.4%となります。

なお、この税率の変更による影響は軽微であります。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	198円03銭	188円77銭
1株当たり当期純損失( )	28円06銭	8円97銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純損失( )(百万円)	1,245	397
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純損失( )(百万円)	1,245	397
期中平均株式数(千株)	44,381	44,367

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

投資有価証券	その他 有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
		第一生命保険(株)	80	9
		(株)エムアイピー	5,000	7
		備南観光開発(株)	12	0
		(株)日立製作所	1,000	0
		計	6,092	17

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	6,377	9	0	6,386	4,518	173	1,867
構築物	376	-	-	376	349	5	27
機械及び装置	4,313	79	7	4,385	3,287	219	1,097
工具、器具及び備品	1,540	47	-	1,587	1,516	35	70
土地	1,009	-	-	1,009	-	-	1,009
リース資産	104	5	-	110	53	16	57
建設仮勘定	17	4	21	0	-	-	0
有形固定資産計	13,739	146	29	13,856	9,726	450	4,130
無形固定資産							
ソフトウェア	-	-	-	115	49	23	66
リース資産	-	-	-	31	10	6	20
その他	-	-	-	12	-	-	12
無形固定資産計	-	-	-	159	59	29	99
長期前払費用	40	4	10	34	12	8	21

(注) 1. 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

機械及び装置 増加額 安中工場生産設備 79百万円

2. 無形固定資産の金額は資産の総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	502	0	-	0	501
賞与引当金	46	46	46	-	46
債務保証損失引当金	285	-	-	10	274

(注) 目的使用以外の理由による取崩額

1. 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権に対する引当金の洗替によるものであります。
2. 債務保証損失引当金の当期減少額(その他)は、関係会社の財政状態が改善したための引当金取崩によるものであります。



## (2)【主な資産及び負債の内容】

## 資産の部

## (A)現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	9
預金	
当座預金	857
普通預金	186
通知預金	34
外貨預金	31
定期預金	4
別段預金	1
小計	1,116
合計	1,126

## (B)受取手形

## イ 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)山善	254
ユアサ商事(株)	210
テスコ(株)	100
(株)ニコン	32
ミクロ技研(株)	8
その他	37
合計	644

## ロ 期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成24年4月満期	172
5月 "	120
6月 "	76
7月 "	194
8月 "	71
9月以降満期	8
合計	644

## (C) 売掛金

## イ 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)山善	388
ユアサ商事(株)	316
OKAMOTO(SINGAPORE)PTE,LTD	197
豊田通商(株)	191
PRECISION TSUGAMI(CHINA).CO.,LTD.	152
その他	2,564
合計	3,811

## ロ 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高及び 振替高(百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 366
3,048	14,886	14,122	3,811	78.7	84.3

(注) 消費税等の会計処理方法は税抜方式を採用しているが、上記の当期発生高には消費税等が含まれております。

## (D) 商品及び製品

機種別	金額(百万円)
研削盤	300
その他	217
合計	517

## (E) 仕掛品

機種別	金額(百万円)
研削盤	630
歯車機械	157
半導体関連装置	1,106
その他	511
合計	2,405

## (F)原材料及び貯蔵品

品名	金額(百万円)
機械部品	361
鋳物部品	15
電気部品	24
半導体関連部品	0
その他	36
合計	438

## (G)関係会社短期貸付金

相手先	金額(百万円)
OKAMOTO (THAI) CO., LTD.	934
OKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD.	326
OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH	54
合計	1,315

## (H)関係会社株式

銘柄	株式数(株)	金額(百万円)
OKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD.	20,300,000	2,217
OKAMOTO (THAI) CO., LTD.	3,560,000	1,906
OKAMOTO CORPORATION	47,545	1,794
岡本工機(株)	372,000	693
(株)エム・シー・エス	200	116
技研(株)	20,000	106
(株)グラインデックスコーポレーション	200	10
(株)ニッショー	460,000	-
合計		6,844

## (I)関係会社長期貸付金

相手先	金額(百万円)
OKAMOTO (THAI) CO., LTD.	1,560
OKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD.	471
(株)ニッショー	462
合計	2,494

負債の部

(A)支払手形

イ 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
岡本工機(株)	207
技研(株)	183
岩代工業(株)	161
横浜油機(株)	136
(株)トミタ	102
その他	1,382
合計	2,174

ロ 期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成24年4月満期	990
5月 "	455
6月 "	355
7月 "	344
8月以降満期	27
合計	2,174

(B)買掛金

相手先	金額(百万円)
OKAMOTO (THAI) CO., LTD.	356
OKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD.	204
技研(株)	130
旭ダイヤモンド工業(株)	78
(株)山善	38
その他	388
合計	1,196

(C)短期借入金

相手先	金額(百万円)
三菱UFJ信託銀行(株)	1,864
(株)三菱東京UFJ銀行	1,245
(株)横浜銀行	1,050
(株)みずほ銀行	500
(株)りそな銀行	330
その他	928
シンジケートローン(注)1	2,680
合計	8,598

(注)1. シンジケートローンは、三菱UFJ信託銀行(株)を主幹事とする5社によるものであります。

## (D) 1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)日本政策投資銀行	320
三菱UFJ信託銀行(株)	316
(株)横浜銀行	158
(株)群馬銀行	68
(株)みずほ銀行	60
その他	60
合計	982

## (E) 長期借入金

相手先	金額(百万円)
三菱UFJ信託銀行(株)	900
(株)横浜銀行	471
(株)日本政策投資銀行	320
(株)みずほ銀行	270
(株)三菱東京UFJ銀行	239
その他	203
合計	2,403
1年以内に返済予定の長期借入金	982
差引	1,421

## (3) 【その他】

特記すべき事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	(特別口座) 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店
買取手数料	無料
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第112期）（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）平成23年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第113期第1四半期）（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）平成23年8月12日関東財務局長に提出

（第113期第2四半期）（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）平成23年11月14日関東財務局長に提出

（第113期第3四半期）（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）平成24年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年7月4日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月28日

株式会社岡本工作機械製作所

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 都甲 孝一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 永井 勝 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社岡本工作機械製作所の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社岡本工作機械製作所及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社岡本工作機械製作所の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社岡本工作機械製作所が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、当社（有価証券報告書提出会社）が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年 6月28日

株式会社岡本工作機械製作所

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 都甲 孝一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 永井 勝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社岡本工作機械製作所の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第113期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社岡本工作機械製作所の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 上記は、当社（有価証券報告書提出会社）が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。